

旧宮城幼稚園施設の有効活用に向けた 対話型市場調査（サウンディング）の結果概要を公表します



前橋市では、令和6年3月をもって閉園した旧宮城幼稚園の土地・建物等について、民間事業者との“対話”を通じて市場性の有無や活用のアイデアを調査する「対話型市場調査」を実施しました。

事業者から6つの活用アイデアの提案があり、“対話”を行いましたので結果概要を公表します。

※対話型市場調査…市有地等の有効活用に向けた検討にあたり、その活用方法について民間事業者から広くアイデアや意見を求め、対話を通じて市場性の有無等を確認する調査のことです。

1 対話型市場調査の経過

令和7年 8月22日	実施要領の公表
令和7年10月 3日	参加事業者向け説明会及び現地見学会
令和7年10月 8日～10月27日	参加受付
令和7年11月12日～11月26日	対話の実施

2 活用アイデアの概要

1	学校形式のデイサービス（高齢者福祉施設）
【土地・建物の全てを活用する想定】	
専門知識のある講師が教養講座等を行うデイサービス施設。その他アート活動制作や作品展示の他、園庭をゲートボールやサッカー等の練習場として貸し出す。	

2	まえばし赤城のArt Workベース（芸術活動施設）
【土地・建物の一部を活用する想定】	
障害の有無、国籍、年齢などの違いに関わらず、様々な特性を持った人たちの芸術活動の拠点とする。アート制作や全国の作家作品の展示・販売等のイベント、講演会活動も行う。	

3	ユニバーサルなみんなの居場所 (コミュニティ施設)
【土地・建物全てを活用する想定】	
こども第三の居場所、こども食堂、児童クラブ、放課後デイ、障害者が働くカフェ等を設け、災害対応も可能なフェーズフリーの防災拠点として、誰もが安心して過ごせる場所とする。	

4	教育と共に助を軸とした共育の実験場「はなげいしラボ」 (コミュニティ施設)
【土地・建物全てを活用する想定】	
施設内で様々な遊びや体験ができ、仮眠、託児、コワーキングスペース、交流カフェなども設置して、子育て世代と高齢者とが共に学び、共に育ち、支える交流施設とする。	

5	公私連携型認定こども園 (保育施設)
【土地・建物全てを活用する想定】	
医療的ケア児等の受け入れ体制を整えた公私連携型認定こども園とする。旧宮城幼稚園の伝統を継承し、主体性を重視する保育を実践する。	

6	書籍、IPを活用したコミュニケーションスペース (複合施設)
* IPとはIntellectual Property(知的財産)	
【土地・建物全てを活用する想定】	
アウトドア体験、キッズスペース、テラス＆ラウンジ、コンセプト書店、絵本ライブラリなどを設け、ワークショップやアクティビティなども行う体験型複合施設とする。	

3 対話結果のまとめと今後の方向性

各事業者へのヒアリングでは、どの事業者も共通して旧宮城幼稚園の立地及び園舎等の既存建物を高く評価していることがわかりました。事業成立に向けては、市に対する要望も付されているため、公募の実現には課題も残りますが、調査結果を参考にしながら具体的な公募条件の検討を進めています。

※事業者が有するノウハウ等を保護するため、公表内容は事業者に事前確認を行っています。

※結果概要の公表は本調査の透明性確保を目的に行うものであり、各アイデアの評価を行うものではありません。

【お問い合わせ】

前橋市教育委員会事務局 教育支援課

電話 027-230-9091 (直通)